**松苧神社**

松苧山の山頂にあるこの神社は、千年以上もの間、十日町の宗教的・文化的生活の重要な部分を担ってきた。また、毎年春には男児の重要な成長祈願の儀式も執り行われる。

歴史的な資料によると、この神社は807年に、苧麻（この地域の織物の伝統の中心的な植物）に関連する神である奴奈川姫を祀るために創建されたとされている。現在の本殿は1497年に建てられたもので、茅葺き屋根の木造建築としては新潟県最古級のものである。1978年に国の重要文化財に登録され、2019年に屋根の葺き替えが行われた。

雪国の厳しい冬に神社が長持ちするのは、その建築様式にも一因がある。茅葺き屋根の急勾配は、雪が積もるよりも滑り落ちるのを促し、屋根を押しつぶす恐れのある負荷から守る。多数の太い支柱は、雪と濡れた茅の重みに耐えるのに役立っている。

松苧神社の最も重要な祭りは、毎年5月8日に行われる「七ツ詣り」である。前年に7歳になった地元の少年たちが、麓の犬伏集落から山頂の神社まで、標高360メートルの約3キロをの山道を登り参拝する。まだ雪が残っていることもあり、年頃の子供たちには難しいコースだが、地域総出で子供たちの登頂をサポートする。神社での祈りと儀式の後、全員が再び山を下り、少年たちの家族が彼らの栄誉を称える祝宴を開く。

この神社に伝わる2つの重要な遺物は、16世紀にこの地域を治めていた有力大名、上杉謙信（1530-1578）が神に捧げたとされる短刀と軍配である。防犯上の理由から神社には納められていないが、レプリカがまつだい郷土資料館に展示されている。